

松下 貞三著

『漢語・「愛」とその複合語・思想から見た国語史』

序説

第一節 読みを中心とする受容史概観

第二節 「愛」という漢字が和語を表記している場合の「愛」の意味・用法

第三節 伝統的意味・用法

第四節 仏教的意味・用法

第五節 転義の意味・用法

第六節 西洋伝来の意味・用法

第七節 全体の問題

あとがき

付表

(あぼろん社刊、一九八二年九月一〇日発行 B6版 二八〇〇円)

南波 浩編『王朝物語とその周辺』

はしがき.....南波 浩

物語の祖なるモノ・ガタリ・竹取物語 伝承史的方法.....廣川 勝美

「伊勢物語」に見る語り手の変貌.....片桐 洋一

伊勢物語異本章段攷.....中田 武司

伊勢物語第三十九段臆断―「天の下の色好み」源の至.....藤岡 忠美

伊勢物語と源氏物語.....森 一郎

源氏物語における夢と物の怪.....西郷 信綱

源氏物語の女性たち.....難波 喜造

予兆としての自然をめぐって―源氏物語の一手法.....深沢三千男

光源氏物語の長根歌引用の表現

―李夫人・子の存在・独詠歌.....久保田孝夫

『源氏物語』花散里の巻の表現と方法.....木船 重昭

源氏物語と歌―「須磨」「明石」と続くこと.....清水 好子

蛭子の再生―難波の祓と光源氏.....石原 昭平

源氏物語六条院の負の構造.....石原 昭平

―乙女巻から玉鬘十帖を中心に.....増田 繁夫

対立と親和―柏木の役割.....神尾 暢子

藤壺中宮と御后言葉―語彙意識の史的資料として.....根来 司

時枝誠記博士の源氏物語研究.....増淵 勝一

「源氏物語」成立の一基盤―紫式部のふるさと.....南波 浩

「紫式部集」の基調.....木村 正中

紫式部集冒頭歌の意義.....益田 勝実

紫式部日記の「時間」序説.....益田 勝実

―「秋のけはひ入立つまゝに」攷.....野村 精一

堤中納言の掃墨物語―助辞規定と重層構造.....塚原 鉄雄

「我身にたどる姫君」巻六の成立について.....今井 源衛

物語歌と物語歌集(上).....大槻 修

―「風葉和歌集」からみた物語『在明の別』.....原田 敦子

桃園考.....森本 茂

名所の独立―「能因歌枕」を中心に.....新井 栄蔵

賢愚之性―古今和歌集攷.....新井 栄蔵

南波浩先生略歴並びに著作目録.....片桐 洋一

あとがき.....片桐 洋一

(等間書院刊、一九八二年九月四日発行 A5版 二二〇〇円)

執筆者紹介

小島繁一……同志社国際高等学校教諭
松田 薫……京都府立朱雀高等学校教諭
橋本昌代……成安女子短期大学講師
玉村文郎……本学教授
堀部功夫……池坊短期大学助教授
岸 健治……平安女学院中・高等学校教諭
宮本正章……大阪府立箕面高等学校教諭

投稿規定

国文学会機関誌「同志社国文学」は、会員諸氏の研究発表の場であり、まずから進んでご投稿下さい。枚数は四百字詰原稿用紙ペン書きで三十枚程度。
ただし、掲載論文の数には限度がありますので、論文の採択は編集委員会に一任して下さい。

同志社国文学 第二二号

昭和五十七年十二月二十日 印刷

昭和五十七年十二月二十日 発行

編集 廣川勝美

発行 同志社大学国文学会

(代表) 松下貞三

京都市上京区今出川通烏丸東入

振替 京都二七三七

印刷所

共同印刷工業株式会社
京都市右京区西院久田町